札幌市立南郷小学校　　学校だより 第７号
令和８年 ９月３０日

南郷

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】
https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/

『ありがとう』のコメントを書く姿からみえるもの
～プロアクティブな関わりで子どもの心を育てる～

校長　関根治彦

放課後、ある男の子が地域開放スペース（職員室前の広場）にある掲示板をじっくり見ていました。そして、おもむろに置いてある付箋を取って、メモを書き始めました。「『ありがとう』を書いているのかい？」と聞くと、照れくさそうに頷きました。「『ありがとう』を見付けられること、そしてそれを伝えられることって、素敵だよね。」と言うと、今度は力強く、「うん。」という返事をしました。

この巻頭言が皆さんの目に触れる頃には掲示板がまだ残っているとは思いますが、９月３０日を一区切りとして、児童支援部主催で『ありがとう運動』が行われていました。6cm 四方の小さな付箋に「○○さん、○○をしてくれてありがとう。」を書いて貼るというものでした。それをお昼の校内放送の時に、児童支援部の先生が『ほんとうにありがとう』（作曲:本校職員です。学校ホームページの左がメニューの最下部に『オリジナル楽曲』のタブの中に音楽が入っています）という曲を BGM に紹介していくというものです。

南郷小学校では、子どもたちの指導や支援において『プロアクティブ（proactive）』な関わりを大切にしています。『プロアクティブ』とは、問題が起きてから対処する『リアクティブ（受動的・反応的）』の対義語で、本来は「先回りして主体的に働きかける」「事前に対策や環境を整える」という意味をもつ言葉です。本校では、そのプロアクティブ的な考え方を土台として、豊かな心の育成を目指しています。プロアクティブ（予防的・先回り的・主体的な関わり）な生徒指導を通して『豊かな心』の育成を図るメリットは、単に「問題行動を防ぐ」という安全・安心の確保にとどまらず、子どもたちの内面的な成長や、人間関係の質の向上に深く波及することにあります。

1. 『自己肯定感』と『自己効力感』の持続的な高まりを生ませること
2. 他者理解と『思いやりの心（エンパシー）』の深化
3. 感情コントロール力と『折れない心（レジリエンス）』の獲得
4. 集団全体の心理的安全性と学級風土の向上

プロアクティブな生徒指導は、『トラブル防止策』の一つではありますが、『自分を大切にし、同時に他者も大切にできる心の土台づくり』そのものです。上記の『ありがとう』運動で付箋を書いている時、給食時間にその放送を聞いている時、さらに先日行われた『スマイル遠足』で違う学年の子どもたちと関わっている時、子どもたちのやわらかな表情を見ていると、心が温かくなっていきます。

このごろは、プロアクティブに関する書籍も多く見掛けるようになりました。そして、それを読んでいると、これまでの子育てに反省しきりです。

家庭内で『なくてはならない存在』と感じられる仕事（花の水やり、献立の相談など）を任せましょう。そして「ありがとう。助かったよ。」の一言が『人の役に立った』『感謝された』という体験が、自己肯定感と共感性を育てます。

そういえば、家庭内での仕事をやっていないと息子に「○○は、××の仕事だよな。何でやってないんだ。」とがっつり叱り、泣きながらでもやらせていたな…。息子に本当に申し訳ないことをしてきたなと思ってしまいます。どんな関わり方が子どもを育てることにつながるのか、考えながら、『ほんとうにありがとう』を聴いています。